

《 発表資料 》

2010年11月8日  
日本経済新聞社

「日経平均ボラティリティー・インデックス」の算出・公表開始について

日本経済新聞社は、2010年11月19日から日経平均株価を対象にした「日経平均ボラティリティー・インデックス」※の算出・公表を開始します。

※ 略称：日経平均ボラティリティー指数、日経平均VI

英文名称：Nikkei Stock Average Volatility Index

「日経平均ボラティリティー・インデックス」は、将来の株式相場がどれくらい変動するかを推定した指数です。大阪証券取引所に上場している日経平均オプションの価格を利用し、投資家が予想している1カ月後の日経平均のボラティリティー（変動率）を指数化します。この数値が高いほど、将来の日経平均が大きく変動すると投資家が予想していることになり、相場の先行き見通しに不透明感が強いことを意味します。詳しい計算方法等は別紙をご参照ください。

激変する経済環境を受けて、ここ数年、株式相場が大きく変動する局面が増えてきました。それに伴い、市場関係者の中で将来の相場変動を推定するボラティリティー指数への関心が高まっています。中でも、米国のシカゴ・オプション取引所が算出している「VIX 指数」（対象は S&P500 指数）や、ドイツ取引所の「VDAX 指数」（対象はドイツ株価指数）などが投資家の間で広く知られており、2008年のリーマン・ショック時の株価急落局面では、これらのボラティリティー指数が急上昇し、市場で話題を集めました。

国内でも、投資家の心理状況を通して、今後の株式相場の動向を探る独自の指標を求める声が年々強まっており、今回の日経平均ボラティリティー・インデックスの算出・公表開始は、こうした市場参加者のニーズに対応したものです。なお、本指数の開発にあたっては、野村証券金融工学研究センターの協力を得ました。

以上